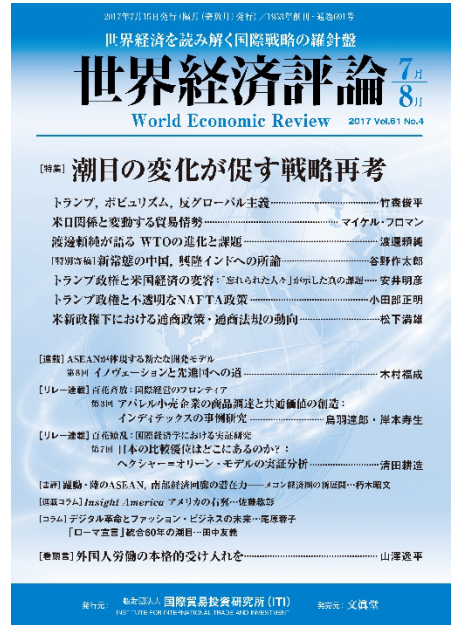


本論文は

世界経済評論 2017年7/8月号

(2017年7月発行)

掲載の記事です



世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料
 1,320円×6冊=7,920円 ▶ **6,600円** 税込 **17% OFF**
送料無料



富士山マガジンサービス限定特典 ※通巻682号以降
デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読

☎0120-223-223

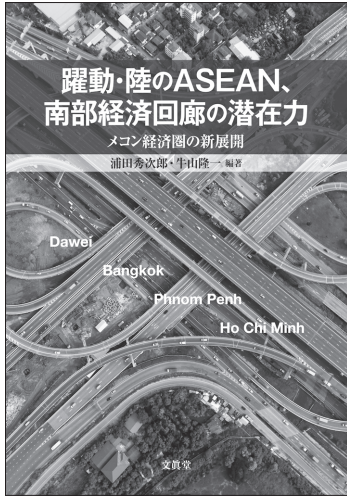
お支払い方法 Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。FujiSan.co.jp
 お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

[24時間・年中無休]

躍動・陸の ASEAN、 南部経済回廊の潜在力

——メコン経済圏の新展開

日本大学生物資源科学部教授 朽木 昭文



【編著者】

浦田秀次郎（うらた・しゅうじろう）

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授

牛山隆一（うしやま・りゅういち）

日本経済研究センター国際アジア研究部長

【発行】文眞堂，2017年2月

【判型】A5判・ヨコ組・270頁

【定価】3500円＋税

2017年はASEAN創設50周年である。メコン圏は投資先をして一段と注目度が高まっている。この圏内の南部経済回廊は、タイ、ベトナム、ミャンマー、カンボジアからなり、日系企業の展開で避けることができない。この回廊の分析が最先端の専門家によってなされた。

本書は、東アジアにおける多国籍企業の「生産ネットワーク」のサプライチェーンの構築を問題意識に置く。ネットワークの形成を促進するのは、「連結性」（コネクティビティー）である。これが強化されるのは、物理的面と制度的な面などがある。経済回廊は、幹線道路、鉄道、港湾など

の輸送インフラにより形成される。この点を本書は明らかにする。

大メコン圏（GMS）は、東西、南北、南部の3つ経済回廊をキー・コンセプトに開発を進める。南部経済回廊とは4つのサブ回廊からなる。それは、一般的には中央サブ回廊である「ベトナム（ブンタウ）－ベトナム（ホーチミン）－カンボジア（プノンペン）－タイ（バンコク）－ミャンマー（ダウエイ）」を結ぶ回廊である。この主要都市であるバンコクを含む自動車産業クラスターなどの説明がある。

「連結性」の強化の点で「タイプラスワン」がメコン圏のハブ機能を高める点を明らかにする。工程間分業の細分化の観点からタイにあった生産拠点を他の国に設置することを意味する。その原因としてタイでの賃金上昇と労働力不足などを挙げる。特に、CLMであるカンボジア、ラオス、ミャンマーについて具体的にミネベアやサイアム・セメントを説明する。

南部経済回廊が特に注目される理由の1つは、近年に投資先として人気のあるミャンマーのダウエイ経済特区が含まれることである。アウン・サン・スーチー党首の政権が2016年4月に成立した。この経済特区の経済効果は大きいと期待されるが、この政権は慎重なペースで開発に取り組むシナリオを示す。特に農地や環境保全の規制を懸念する。「タイプラスワン」のベトナムとカンボジアはほとんど見られないと説明する。カンボジア・バベットのマンハッタン経済特区とタイセン経済特区を詳説する。カンボジアについて国際的なサプライチェーンの一環として参加の可能性を検討する。本書の最後に日本企業の積極的な経営の事業展開事例が紹介される。

本書は、日本企業関係者のみならず地域統合へ関心のある人、学生の方にも是非とも読んでいただきたい問題設定と貴重な情報があふれ、必読の書である。（くちき・あきふみ）